

多様な土偶 一目で比較

国宝、重文レプリカや写真

尖石縄文考古館 企画展

茅野市尖石縄文考古館は、企画展「あの土偶 この土偶 レプリカと写真で見えるさまざまな土偶展」を同館で開いている。全国各地から出土した国宝、重要文化財の土偶7体のレプリカを展示。第25回尖石縄文文化賞を受賞した写真家小川忠博さん撮影の画像なども飾り、縄文土偶には多様な形や大きさがあることを伝えている。11月3日まで。

(手塚洋一)

市内出土の土偶「縄文のビーナス」の国宝指定30周年記念で企画した。レプリカ7体は2000年に同館がリニューアルオープンした際に製作し、同館が所蔵。今回、一堂

にそろえ、それぞれの特徴が一目で比較できる。

国宝のレプリカは「中空土偶」(北海道函館市出土)、「合掌土偶」(青森県八戸市出土)、「縄文の女神」(山形県舟形町

出土)の3体。重要文化財のレプリカは「遮光器土偶」(青森県つがる市出土)、「板状土偶」(青森市出土)、「ハート形土偶」(群馬県東吾妻町出土)、「みみずく土偶」(さいたま市出土)の4体。さまざまな角度から鑑賞できるように配置した。中空土偶は頭頂に二つの穴が開いている。板状土偶は体が平たいのに対して頭部が後ろに張り出して表現されていたりするのが見て取れる。展示を担当した茅野市教育委員会文化財課考古館係の上野楓さんは「土偶は立体的なもの。上からや後ろから見てもほしい」と話している。

画像は滋賀県東近江市出土の「最古の土偶」や、福島県三春町出土のハート形土偶などが並ぶ。このほか妊娠を表した土偶のレプリカや、手のひらサイズの小型土偶、土偶の足の破片なども展示した。開館時間は午前9時～午後4時30分。月曜休館(休日の場合を除く)。問い合わせは同館(電話0266・76・2270)へ。



企画展「あの土偶この土偶」に並んだ全国各地の国宝、重要文化財の土偶のレプリカ。さまざまな角度から造形を見ることができる